

P1-049

養護教諭と保健室に関する研究（１） 大学生の小学生時における保健室の利用 頻度と保健室の印象

新沼 正子¹、三宅 孝昭²、平松 恵子³

¹安田女子大学、
²大阪府立大学、
³びわこ学院大学

【目的】

大学生が小学生時に養護教諭と関わり、どのように保健室を利用したか調査した。そして保健室がどのような場であったかを知り、子どもたちが健康的に日常生活を送るための方策が見いだせるのではないかと考えた。成長発達の過程にある小学生が健康的に過ごすための援助に対して、養護教諭の専門性を発揮するためには、どうあるべきかについて、今日的課題として捉えようとした。

【方法】

2015年5月から7月にかけて大学生526名を対象にアンケート調査を実施した。調査項目は、小学生時の保健室の利用頻度と保健室の印象であった。学生に調査の目的と方法を説明し、調査への参加は自由意思であること、拒否による不利益が生じないこと等を口頭及び書面で説明し了解を得て実施した。

【結果】

保健室の印象は、「病気やケガをした時に行く所：93.2%」、「身長・体重・視力等を測る所：69.4%」、「物をもらえる所：46.6%」、「友達の付き添いやお見舞いに行く所：37.6%」、「休憩する所：24.7%」、「悩みを相談する所：22.7%」であった。また保健室の利用頻度「健康診断や身体計測の機会を除き、保健室はどの程度利用していましたか」について、「ほぼなし：37.5%」、「2～3回程度：37.6%」、「10回程度：13.1%」、「それ以上：11.0%」であった。

【考察】

養護教諭の活動の場である保健室は、子どもたちが健康的に毎日を過ごすことができるよう支援する場であり、子どもの自己決定能力を引き出しながら、ニーズに合わせた対応をしていく必要がある。保健室の印象として最も強いのは「病気やケガをした時に行く所」であり、学校内での体調管理とケガの治療であり、その一方で身長・体重等健康診断により、自己の体について知ることであった。これにより健康の自己管理のための動起づけと意識を高めることになるであろう。また、子どもたちが養護教諭との関わりの中で心身を休め、日頃の悩みや日常生活時の相談により、不安やストレスを軽減させる場でもある。そして保健室の利用は児童全体の60%が何らかの関わりがあった。いずれにせよ保健室の利用が学校全体の健康づくりのための場であることが期待される。

【まとめ】

保健室は学校教育の場において、成長・発達の過程にある子どもたちの養護活動を実践するところであり、現状の心身の問題解決を進めると同時に健康教育、健康づくりの場として位置づけられる。

P1-050

養護教諭と保健室に関する研究（２） 大学生の小学生時における保健室への要望と養護教諭への相談内容

三宅 孝昭¹、新沼 正子²、平松 恵子³

¹大阪府立大学、
²安田女子大学、
³びわこ学院大学

【目的】

養護教諭は、保健室の環境を整えるとともに受容・共感的態度により、子どもたちの不安や悩みを軽減できるようにする必要がある。その一方で、教育職である養護教諭と養護活動の場である保健室に何を期待しているのか、また養護教諭の「養護」が子どもにどのような影響を与えているのかを明らかにしようとした。

【方法】

大学生526名（男子275名、女子251名）を対象に、2015年5月～7月に小学生の頃の保健室と養護教諭について、アンケート調査を実施した。調査内容は「養護教諭への相談内容」「養護教諭が行った対応」についてであった。倫理的配慮として、学生に調査の目的と方法を説明し、調査への参加は自由意思であること、拒否による不利益が生じないこと等を口頭及び書面で説明し了解を得て実施した。

【結果】

養護教諭への相談に関しては「ケガ13.2%」「友人関係9.6%」「病気9.6%」「家族5.3%」「生理5.5%」等であり、養護教諭の行う健康相談活動は、子どもの自己決定や自身の解決を可能にする支援となっているという知見が得られた。また、養護教諭に求められることは、「話しやすさ」「やさしさ」等であった。

【考察】

養護教諭への相談により「すっきりした」「解決できた」かどうかを確認するとともに、相談内容が今後の子どもたちの生活にどのように影響するかについても配慮していくことが必要である。いずれにせよ、保健室における養護教諭の対応は、子どもたちの「集団として」「個人として」の両面からの検討が必要になる。そして心身の健康相談活動により自己決定や、自身の解決を可能にする支援となることが期待される。保健室の利用は「病気やケガをした時に行く」「身長や体重を測る」「悩みを相談する」などが期待されていることから、養護教諭はどのように対処したかが養護教諭に求められる。つまり、保健室は、子どもの生活実態を把握し、健康的な日常生活を送ることができるように支援していく場となっていたことになる。

【まとめ】

保健室は、養護教諭への相談を中心にふれあいの場であり、心身の成長発達を通じて、健康管理の必要性和健康づくりのための教育の場となっていることから、子どもの相談内容への適切な対応と、専門的で豊富な知識が求められる。